

(参考) 成長率目標の考え方

精査中

成長率目標については、この成長戦略の主な取組によるG R P押し上げ効果の試算をもとにそれ以外の経済効果も加味して、目標として実質成長率2%以上と設定

【主な取組による経済効果(試算)】

総合特区によるG R P押し上げ効果 約2兆4千億円(10年間)

・国際戦略総合特区の経済効果

(夢洲・咲洲、北ヤード、彩都の企業進出、周辺エリアでの設備投資、関空の貨物量増加・物流施設立地による効果)

・地域活性化総合特区(大手前・森ノ宮)の経済効果

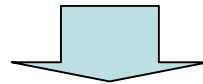
観光振興によるG R P押し上げ効果 約5千億円(10年間)

(統合型リゾート施設、大規模集客施設等の立地・観光消費等による効果)

産業振興によるG R P押し上げ効果 約2兆4千億円(10年間)

(輸移外型産業の成長や労働生産性の向上等による効果 但し、特区分は上記で計上)

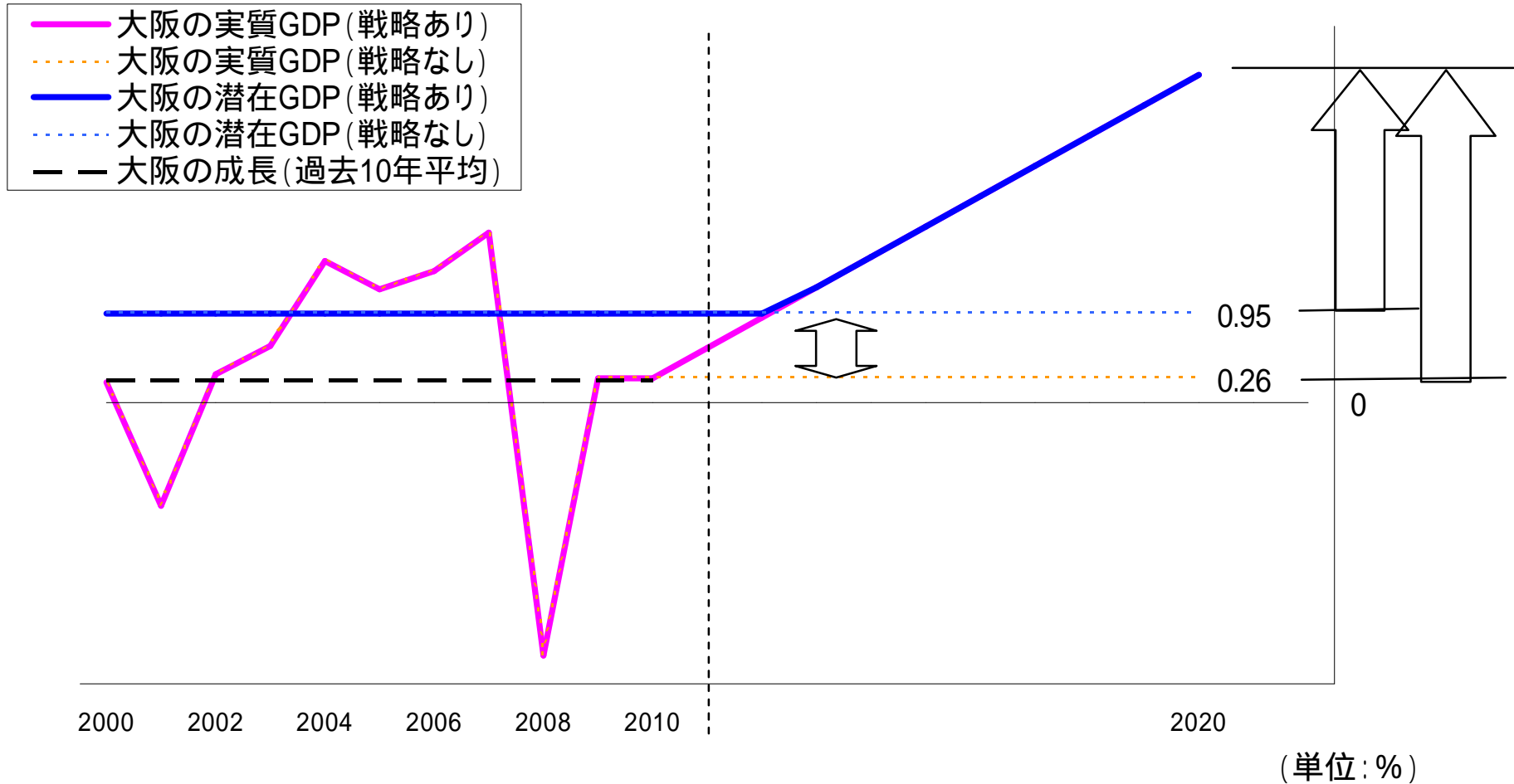
2020年までの10年間で合計約5兆3千億円の経済効果(成長率押し上げ 年平均約1.2%)



その他の全ての取組(例 官民連携によるインフラ整備、地域ストックの活用、低炭素化の促進 等)の経済効果を加味して、目標として、実質成長率2%以上を目指す

(参考) 大阪府の過去10年間の実質経済成長率は、平均0.26%

成長イメージ(概念図)



GDPギャップの解消
 潜在GDPの押し上げ
 実質GDPの押し上げ・・・「大阪の成長戦略」による効果部分